令和7年度 第1回
江戸川区ひきこもり支援協議会
議事録

江戸川区福祉部

令和7年度第1回江戸川区ひきこもり支援協議会

日時：令和7年5月19日（月）午後2時30分から午後4時30分

場所：グリーンパレス 集会室404

出席者：委員 学識経験者、ひきこもり支援専門家、ひきこもり経験者の家族、
ひきこもり経験者、医療関係者、相談支援関係者、町会自治会関係者、
民生・児童委員、就労支援関係者、居場所づくり事業関係者、
江戸川区福祉部長

事務局 生活援護管理課長、ひきこもり施策係職員

- 議事：1 ひきこもり支援施策実績報告
2 令和5・6年度ひきこもり実態調査の結果報告書（概要）
3 ひきこもり支援協議会の実績等について

議事

1 ひきこもり支援施策実績報告

- ・相談支援と繋がっているひきこもりの状態の方（以下、「当事者」という。）の約半数が家から出られない方である。
- ・相談支援の約半数が家族のみの利用であり、当事者まで支援が行き届いていない。（当事者が相談を希望していない。）
- ・実態調査を行ったことで、多くの当事者やその家族が相談支援に繋がるきっかけとなり、ひきこもり支援推進事業の周知にも効果があった。
- ・家族会、メタバース居場所、当事者家族向け対話交流会の参加者が減少したが、参加をきっかけに相談支援に繋がる方も多く、大切なツールとなっている。
- ・より多くの当事者や家族が、ひきこもり支援推進事業に繋がる方法についての助言を求めた。

【委員から出た意見】

- ・訪問支援で当事者に会えるかはケースによって異なり、訪問回数や支援期間で一概に説明できない。家族支援が長期化してしまうケースもあり、その状況になった場合の支援方法が課題だと思われる。
- ・家から出られない方への支援が、相談員からの一方通行のやりとりなのか、相互にやりとりできている状況なのか、詳細な統計があれば知りたい。
- ・相談につながった経緯で「調査」が多かったことは、非常に注目すべきことである。
- ・「家から出られない方」は、状況により複数の段階に分かれるのではないかと。
事務局回答／「家から出られない方」は様々な状態が考察されるが、支援方法等に
合わせて状態を段階別に記載しているため、1つの段階で表している。
- ・イベントに初めて参加する方を増やすために、池上委員の新聞記事を活用し周知を行うのが良いと思う。
- ・メタバースを活用した居場所の運営を開始した自治体が多いので、メタバース居場所の

参加者数減少に影響している可能性がある。

- ・居場所では、イベントから相談窓口に、時間はかかっても繋がる実感がある。参加者の声を受け止め、守るべきところ、改善するところ、工夫しながら運営していきたい。
- ・家族会の様子から、当事者や家族の尊厳を第一に尊重した支援、つまり国が示す支援の考え方が実践されており、心強く感じた。

2 令和5・6年度ひきこもり実態調査の結果報告書（概要）

- ・令和3年度からのひきこもり実態調査は、令和6年度をもって終了した。
- ・調査は、実態を把握するというもののみならず、支援に繋がるという意味で非常に大きな効果があった。
- ・実態調査終了後の区民への周知方法について、意見を求めた。

【委員から出た意見】

- ・令和6年度の時点で、208人が調査をきっかけに支援につながった。208人それぞれの生き方がある。数字では読み取れない、それぞれの生き方を、報告書とは別の形でまとめてほしい。
- ・イベントは、参加人数に関係なく、継続して地道にやっていくことで、その先の「相談支援に繋がる」「支援を受ける」流れになるのではないか。参加者数に注目するのではなく、イベントという受け皿がしっかりあるということが大事だと思う。
- ・報告書に当事者や家族の自由記述が記載されているのは、とても重要である。自由記述から必要な支援の検討につなげてほしい。
- ・講演会というよりは、くだけた感じ、いい意味での雑然としている雰囲気イベントが、意見が出しやすくいい。
- ・ひきこもり支援について知らない当事者等もいるので、区ではひきこもり相談をしていること、気軽に相談ができることを、区報に毎回掲載してほしい。
事務局回答／効果的な方法について検討していく。
- ・SNSを活用し、情報が拡散されるような工夫があるとよい。

3 ひきこもり支援協議会の実績等について

- ・令和4年度からの協議内容と実績を振り返った。「ひきこもり実態調査の実施」「駄菓子屋居場所よりみち屋の開設」「ひきこもりの状態にある人やその家族等へのサポート推進条例の制定」について、意見をいただき実現することができた。残されている協議項目の「家族支援の更なる強化・家族会の充実方法の検討」「ひきこもりの状態にある人、それぞれに適した就労支援方法の検討」について助言を求めた。
- ・一般社団法人みんなの就労センターより、日本財団との連携協定による「就労に課題を抱えている方の安定的な就労に向けた支援」について説明があった。

【委員から出た意見】

(1) 家族支援の更なる強化・家族会の充実方法の検討

- ・家族が支援に繋がるまでになぜ時間がかかるのか。家族も困っているので情報提供すればいいのではないか。
事務局回答／一方的な提供にならないように、家族の意向も尊重しながら、丁寧に対応していきたい。
- ・情報提供は、当事者や家族のタイミングで行えるよう伴走しながら行っていくことが大事である。
- ・知り合いに会ってしまう可能性があるため近隣での相談を避ける傾向もある。
- ・当事者は、家族の助言は聞かない。何年も同じ状況が続き、何も解決できないジレンマを抱え、思考錯誤して、やっとひきこもり相談に出会っても、家族は自分のことではないので、思うように進まない、効果が見えないため、疲れてしまう。
- ・家族会は、家族の心のケア、日常に戻るための休息をとれる時間になるよう心掛けている。
- ・家族の相談に対するハードルを下げるために、グループによる家族会の他に、個別の相談もある。個別相談でも秘密が守られるように配慮していることをアナウンスしていくのも重要だと思う。
- ・ピアサポーター（ひきこもり経験のある方の家族等）による電話相談も、相談のハードルが下がって良い。行政が入らず、相談というよりは愚痴を話せるくらいの場があっても良いと思う。

(2) ひきこもりの状態にある人、それぞれに適した就労支援方法の検討

- ・障害者手帳を取得しているが、障害者福祉サービスの利用を望まない方もいる。障害者手帳の有無に関わらず、必要な支援を受けられるようになってほしい。
- ・当事者は、責任を自分で背負う傾向があるため、回復期で就労への意欲が出てきても、はじめから完璧を目指さなくていいというメッセージを伝えながら支援できるとよい。